2020年度Joint Education Programによる授業実施報告
夏学期集中講義

国際社会をひもとく A/国際社会と地域 1
Dynamic Asia: Topics in Peace and Conflict Studies from Diverse Perspectives
ダイナミック・アジア：多様な観点から平和と紛争を考える
2020 年 9 月 14 日（月）、15 日（火）、16 日（水）

本授業では、協定校を含む紛争経験国の海外 7 大学とオンラインで接続し、各大学の教員より本学学生向けに講義を行ってもらった。もともと、本学大学院の平和構築・紛争予防講座で行っていたPCS グローバル・キャンパスプログラムのネットワークを学部授業向けにも活用した。紛争解決や紛争分析を含む平和学の基礎の理論学習をした後、紛争経験国の大学教員より各国の紛争について講義していただき、その講義を聞いた上で学生は活発に質疑や教員との討論をしたり、学んだ理論、特に紛争分析のツールを使用して各国紛争を分析したりすることで学習内容をより深く理解するという内容である。理論の習得のみならず、現地の教員から現地の紛争についての話を直に聞き、インタラクションができるということがこの授業の特徴である。また、平和や紛争という概念には一つの絶対的な定義があるわけではなく、見ている角度によって解釈も変わるということを学生に実際に体感してもらうことも趣旨である。

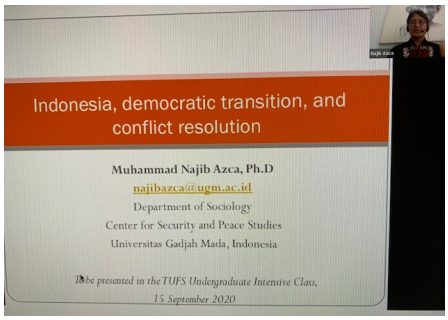
1 日目は基盤となる理論学習に終始し、2 日目はカンボジア、インドネシア、スリランカの紛争について、各国教員の講義を受け、討論等も行った。3 日目は、現在進行形であるインドとパキスタンのカシミールを巡る対立について、インド側、パキスタン側、さらにインド側のカシミール、パキスタン側のカシミールの各大学の教員から講義を受け質疑、討論等を行った。特に 3 日目については、この日に行われた 4 大学の講義のテーマはインドとパキスタンのカシミールを巡る対立ということで統一したが、各教員とも違った立場からこの対立を見ているため、分析の観点、同じ意味の表現でも使用する単語が違っていたことなどを学生は実感したようだ。全体的な感想としては、各語科の学生が現地の教員の講義を初めて聞けて嬉しかったという声や、また、インドとパキスタンの紛争に関しては深刻な状況についても現地教員から直接聞くことができて、国家間紛争がいかに人々の生活にまで影響してくるかを深く理解したという声などがあり、学生は多くを学んだようである。

この度は、JEP プログラムのおかげで、アジアの紛争について現地から生の声で歴史や現場を聞く機会をいただき学生が多様な観点を得ることができたため、深く感謝申し上げる。

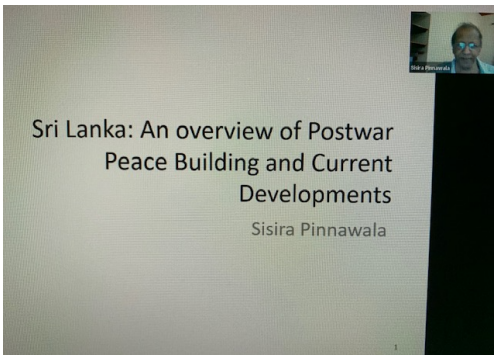
2020 年 9 月 30 日　世界言語社会教育センター　福田　彩

カンボジアの教員の講義の様子

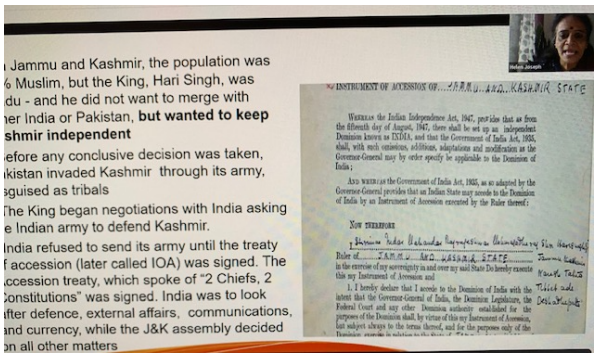
インドネシアの教員の講義の様子




スリランカの教員の講義の様子

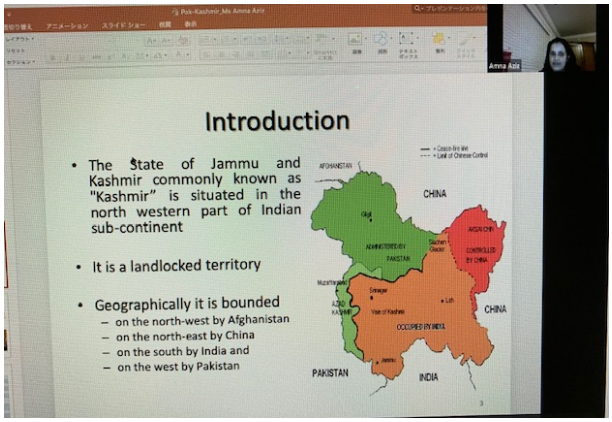


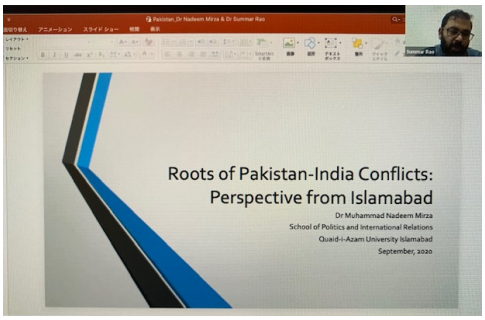

インドの教員の講義の様子




インド側のカシミールの教員の講義の様子

パキスタン側のカシミールの教員の講義の様子




パキスタンの教員の講義の様子